

JWA2022年度8月月例理事会 議事録

2022年8月25日(木曜日) 19:00～21:30 GoogleMeet

出席者: 会長:川添 雄彦

理事長:石原 智央

理事:生駒 大輔/岩田 俊彦/霜山 厚/鈴木 智彦/土佐 洋子/豊岡 美枝/

三澤 文良/宮野 幹弘/永田 絹子(書記)

学連:小林 将

(敬称略五十音順)

【報告】

1) ANA WWC日本人選手参加の人数のその後 (三澤)

参加人数、男子64名、女子32名。

男子については、

昨年度及び今年度のPWAツアーに参加実績がない為日本人選手にはランキングがついていない状況
ランキング選手から出場枠を配分するので、従来の参加してきた実績からは大幅に下がる可能性あり

女子については、

2021年のランキングについても13～14名しかいない。

全員が出場したとしても枠に余裕があるので、招待選手の枠をまわし、なるべく男子の枠へと思案中

(石原)toto助成金取得条件の30カ国参加に関して

(三澤)2017～2019はクリアしている

ブラジル、ノルウェーなど、東南アジアの選手が多く

フォイルになった事もあり声掛けは多くにできる可能性大

女子選手が主になり三澤さんがサポートする形で進めていく

2)事務局とやり取りをしていた内容について(岩田)

今年度から監事になって頂いている繁澤さんにNPO法人を閉鎖時に最終的な会計監査をして頂く

(石原)監査と経理をしっかりと終らせるという事になると思うので

事務局へ確認

3)学連委員長(2021年)小林将 こばやしまさし(明治大学4年)自己紹介

今年度はサポート役(問題解決など)として学連に残り活動していく。

理事会には学連から(現委員長の遠藤、元委員長の小林、元女子委員長の元木)

3人のうち誰かが参加させて頂く事になります。今後とも宜しく願い致します。

4)検定の進め方(霜山)

今までの検定においての普及が進まなかったのは、検定自体のコンディションが整わなかった事が
一番のネックであり、今後はやり方を変えていく事が第一。

全国のSHOPスクールで、5級4級のベーシック(ビギナー)のバッチテストをどこでも
できるようにしたいと考えている。

3級2級1級になると、3級以上が国体に出場する為の資格になるので、公認スクール、

公認インストラクターに検定員になってもらい行ってもらう。

ジャイブ検定、タック検定、プレーニング(フォーム)検定など楽しみながら取得できる

検定にすれば受けやすくなると考えている。

但し、検定日のコンディションに左右されるとは思うが、プレーニングできるコンディションであれば
と限定せずに、タック、ジャイブ、フォームの細かい採点をして3級2級1級に振り分け

取得できる級が決まると考えている。

何級の検定

来月、TEARSでテストケースで検定を行う予定(数回)TEARSでの検定の際に動画を撮り、それを題材にして動画の講習をして、模擬採点をして検定委員試験にしてはどうかと考えている。

学生に対しては、3級以上を取得するのが目標。
4月に入部し道具を購入した時点で5級となり、4級取得のレベルで新人戦。
レースの完走ができれば3級取得対象者となる。
但し、すでに3級取得者の中にもあまり乗れていない選手もいるので、レベルの線引きは3級であるのかと思う。さらに各地での学生のレースに出場できるレベルになったら、2級までは取得可能。
最終的に1級を取得したかったら、インカレ上位入賞者やそのレベルに見合うコンディションの中で乗れているかどうかの判断となる。
大会のグレードとコンディションで決めていく事になる。

- 5級: セイルアップして100m進む(一方通行)
- 4級: 風速2m/s前後でクローズ、アビームで上っていき
クウォーター、ランニングで帰ってくる事
タックやジャイブでもたもたでもいいから方向転換できる
- 3級: 上下に行けるのとプレーニングできる風速で走れる
- 2級: がっちりプレーニングできる事とレールジャイブ
- 1級: さらにグレードアップした走り

(石原)現状を思うに、長年やってきているのに活動が見えていない。
色んな所で活動があり検定が進んでいたら、価値は上がっていた。
意見を集約する事も大切だが、実際に活動が伴わないと進まない
活動する人を巻き込み、対価を払っていく事をしていきたい。

【議 事】

1) 県連への返答とJSAFへの要望(石原)

県連の理事およびJSAFがパブリックコメントを我々に伝えていないので、現状では理解できていない。
JSAFがこの処分を匿名にしているのは何故か? 今までの倫理規定違反者への対応も不明

名前の公表に関しては、慎重に行った方が良い
人権侵害などで訴えられてしまう可能性もあり得るので、他のスポーツ団体などで調べてみる
→他スポーツ団体では、名前は公表されていない
よほどニュースになっていない限り、処分自体公表されていない

(石原)処分が無期だという事を県連に伝える(事務局)
JSAFの方にもJWAの要望として出す(異議なしにて承認)

2) ビギナークラスイベント時のJWAビブスなどについて(生駒 豊岡)

ジュニアの大会で使用したビブスがセブンシーズの所有物である
今後の育成の為に他にイベントでの活用にも
JWAの名前を入れて作り、貸し出しすれば活用できるという提案

(石原)予算見積り出して作成の方向で検討

3) 新しい協会になるにあたり、委員会、役員の見直し(石原)

NPO法人としては8月で終り、一般社団法人として9月から始まり
新しい協会としては、委員会や役員を見直したいと思っている。
今後は、協会員を増やし、ウインドサーフィン人口を増やしていく事を
飛躍的にやっていき、協会も業界自体も良い方向に進めていきたいと思っている。
今現在の理事は、お願いして入ってもらった理事が大半である事
自ら理事をやりたいと思う気持ちの人を中心に提案し予算を組み活動する
さらには主軸となる理事は人数も減らして、もっと小回りが利いて
協会自体をスピードを持って、実践的に動かしていく人を理事同様の立場として
迎え入れ、かつ理事だけではなく、確実に必要な委員会及び部会とかに変えて

普及委員会、競技委員会、検定委員会など
実際に動かしていかないといけない委員会を作りそのTOPに理事もしくは
その意思のある人を据えて、予算を組み、発展させる政策を考え、
責任を持って実行するというシステムに変えていきたいと思っている。

(川添) 我々の組織は実行力を高めないといけない状態
色々なアイデアやディスカッションはしてきているが最後の実行に移す所に
欠けていると思われる。
だからこそ、実行部隊を作り、ボランティアではない人に対価を与え、
職員として仕事を行う。
理事は団体が健全かどうか、正しい事を行っているかどうか判断する活動になる。
新しい組織に変えていかないといけない状況である。

(生駒) 理事をまとめる事は賛成で、実行部隊を管理するのが理事であるべき
JWAを一気に変えるのも大切だと思う。

(鈴木) 責任を与えるという意味からも仕事をした分の対価を払う試みは
初めてだから、やってみてもいいと思う。

(岩田) 理事長の熱量は理解できるが、今後、ウインドサーフィンを生業に
している人たちだけが儲けるような組織にはしたくないから、
その見極めをしていく。

(霜山) JWAが競技団体なのか普及がメインなのか、どっちも大事であるが
競技自体は普及のツールの一つであり、このスポーツを宣伝する為に
競技があって、競技によって生活ができる人、競技を見る事によって
やってみたいと思う人がいるという普及の為のツールである。
一方で選手にはならないフリーの人たちを
どうやって増やしていくのが課題。

(豊岡) 理事の中には、すごい動いてみえる人とそうでない人がいて
みんなが違う動きをしていて、お互いが何をやっているのか
わからない状況であって、漠然としている。
そして、無償で活動をしているが、実際にかかるお金はあると思う。
その経費に対して、どこまで協会から出してもらえるのかが不透明である。
活動するにあたって上記のようなこともあり、動きづらいのが現状であると思う。

(土佐) 検定の話聞いて、インストラクターみたいな事なら協力できると思う。

(永田) 新しい協会になるにあたり、委員会、役員の見直しに賛成
学連も守りたいし、自分のできる事、できる範囲で協力していく

(三澤) 色々な面で今が過渡期であり、リフレッシュする事で活動していく
競技団体としては限界があり、時代に合わせて変わっていく必要がある
一般社団法人としてのインセンティブとしては、
職員が実働部隊になる事が活動の要になる
それに関する、収入や収支などをどうやって作っていくのか
会社経営として理事も含めてスポンサーを取っていくのが前提だが、
フロントで動いていく人が動きやすいようにする事が必要である。

(川添) 職員の起用と理事が動かしていくという組織に変えていく事に尽きる

(石原) 今後の理事の中に若い力を取り入れていきたい

(川添) 若い人たちの意見を取り入れたいという考えで理事に起用するのではなく、
若い世代に原案を作る立場でいてもらい(職員)
その原案に対して判断を下すのが経験値のある理事となる

(石原) 理事に関しては若い世代を集中させず、意見を言える人を数名起用し
後は経験値のある理事を残していく
そして、実行部隊のTOPにやる気のある若い世代を職員として起用する

(霜山)一般社団法人として、事務局との関係は

(石原)事務局として、迅速に対応するような契約をする
事務局がスポンサーを取り、資金のコントロールをしているので
そういった意味では、外部委託事務局がそこにあるのには意味がある

(三澤)若い力は、企画と運営していく立場として職員として最適
企画部のような組織のその下に各委員会がぶらさがりを感じる

(岩田)職員にはどの程度の金額を支払うのか？

(石原)限られた活動のみに対価を払う

(石原)平野先生が送ってきた学生のアンケート
すべての理事に確認してほしい
学連の今後と一緒に考えていく

(小林)今年11月のインカレは宮崎さんに運営を依頼
九州学連の件について
予算もあるので9月理事会までに報告する
バジテストに関して
級を取得しても、就活で使えるのか(履歴書に記載できるのか)
ただ、そのすごさが伝われば取得者が増えるか可能性大
学連のイベントとして、検定員を呼び検定を受ける機会を
持ちかえり学連内で提案検討していきたい。

4)臨時総会の日時、詳細の決定(石原)

9月末から10月中旬へ延期

5)規約の作成に関して

定款は作成済みであるが規約が未作成である。
規約の中である程度、細かい内容を(委員会の在り方など)考え
今後の論議の為に臨時総会までに作成する。

【その他】

1)唐津市の死亡事故(川添)

レンタルした道具で死亡事故が発生した
こういう事故を防ぐ為に何かSHOPの方でどう対応しているか？

(生駒)レンタルされるお客さんにはどの程度乗れるかのレベル確認はする
誰もが級を持っていれば、レベルが分かりやすいし
そのレベルに合った道具を貸す事ができる。

(石原)一時期、千葉のあるショップでは3級を持っていないとこの道具は貸さない
というやり方をしていた。
検定での級が普及すれば、レベルの確認ができやすい

議事録内容確認署名

議事録確認理事長:石原 智央

理事①:豊岡 美枝

理事②:岩田 俊彦